

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月1日

事業所名 めくめく(ぱんな・こった)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・活動の部屋と学習の部屋を分ける事ができる。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・基準に沿った適切な人員配置で支援を行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	・室内はバリアフリー化がされている。	・事業所が2階にある為階段があるが、両サイドに手すりが設置してある。利用児童に応じて支援をしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・月に1回以上の支援員全員参加型の研修会を開催している。	・常勤支援員の支援会議は毎週開催している。 ・支援員全員からの発言の機会を増やしていく。 ・参加出来なかった支援員に情報を共有する(議事録)。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			・保護者からの評価やご意見を元に、業務改善に努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・ホームページに掲載している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・現在行っていない。事業規模に応じ今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・月に1回以上の支援員全員参加型の研修会を開催している。	・大学の講師による研修会を毎月行っている。 ・外部研修にも参加をし、その内容を支援員に伝えている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・アセスメントシートやアセスメントシートの記入を保護者に依頼している。 ・面談も随時行っている。	・シートの記入を元に、より詳しく児童の状況を聴き取りしっていく。また、送迎時の保護者との会話を大切な場と考えている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・独自のアセスメントシートを標準化している。	・日々の記録や、支援員から子どもの様子や情報を収集し計画に反映できる様にする。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・常勤支援員で支援会議を開催し、活動プログラムを企画している。	・平日は活動内容を固定しているため、学校休業日の活動内容を常勤支援員で話し合い、企画している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・季節感のある活動企画の立案を行っている。	・日頃の成果を発揮できるスポーツイベントや、様々な経験ができる企画の立案を行う。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・休日、長期休暇でしかできない活動を企画している。	・平日の活動内容は曜日によって固定しているため、学校が休みの日のプログラムは、様々な体験ができるプログラムを企画していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・集団活動に馴染めない場合は、個別活動で対応している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・その日の業務内容は支援員と確認をしている。	・タイムスケジュールを作成し、支援員全員で確認できるようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・個別に気になった点を確認し合っている。	・終業前にミーティングを開き、その日の振り返りや伝達事項の共有を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・支援員が偏ることなく、毎日記録をしている。	
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・6ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	・目標の達成状況に応じて、適宜計画の変更を行っている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		・様々な活動プログラムを曜日毎に設けている。	・スポーツを中心に、実生活に必要な社会性の向上を目的とした活動を企画していく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・管理職が参加している。また、支援員も参加できる機会を増やしている。	・支援員も参加をする事で、児童に対する観察力を向上させ、保護者との連携を取れる様に促している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・時間割を毎週入手している。必要に応じて担任との情報共有を図っている。	・お迎え時に、担任の先生との情報交換を行う。また、担任の先生の施設訪問も受け入れをしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		・現在、対象児童がいないため未対応。必要に応じて体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		・現在は行ってないが、新入生などの利用に応じて情報共有と相互理解に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		・現在、対象児童がいないため未対応。必要に応じて情報提供等の体制を整える。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		・現在は専門機関との連携がまだ取れていないが、今後研修等への参加を検討している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		・近隣の公園で、一緒にドッジボール等の公園遊びを楽しんでいる。	・他の機関が企画するボッチャ大会やスポーツイベントへの参加を検討している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	・西サポネットから情報の入手を行っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・送迎時に保護者と会話を大切にするよう努めている。	・送迎時に保護者との会話で伝えられるようにしていく。 ・周年祭など、保護者の参加できる企画を考えていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	・臨床心理士資格を持つ支援員による対応を必要に応じて行っている。	・癇癪などの問題行動について相談があった時は、正の強化のやり方について共に考えている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に必要事項の説明を行っている。	・分かりやすい説明や書面の配布に留意する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・臨床心理士資格を持つ支援員と管理者による対応を、必要に応じて行っている。	・どの支援員も保護者との良好な関係作りができる様に、スキルの向上の研修会を事業所内で行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	・保護者参加型の企画を、学校休業日に行っている。	・保護者同士の交流が持てる場をより多く企画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・子どもの意見は積極的に活動に反映させていくようにしている。	・子どもの発言できる機会を増やす。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・定期的にブログの更新を行い、活動内容を伝えている。	・ブログの更新により日々の活動が分かり、安心して過ごせる環境を知ってもらう。
	35	個人情報に十分注意している	○		・個人情報の書類は鍵付書庫で管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・個別に分かりやすく説明するようにしている。	・口頭だけではなく、書面での情報伝達やSNSの活用により気軽に相談ができる様にしていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	・管理者が地域の清掃活動に月に1回参加している。	・今後、地域に開かれた施設になるように検討していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・マニュアルは支援員がすぐ確認できるように事務所の玄関に設置している。	・契約時や避難訓練の様子をブログにて発信することで、保護者に周知をしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・非難訓練はマニュアルに沿って行い、ブログに掲載している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・研修会を開いている。また、虐待虐待防止マニュアルの設置。	・身体拘束や虐待については研修会を繰り返し行い、支援員の意識を高めていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・事前に身体拘束に関する同意書を説明のうえとっている。また、身体拘束を考える研修を開催。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・事前にアレルギー、食べられない物を保護者から把握している。	・アレルギーの研修会に参加をし、支援員の研修会で伝えた。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・ヒヤリハットは支援員間で共有できる場を設けている。	・研修会で事例検討を行う。